

平成 25 年度

自 平成 25 年 4 月 1 日
至 平成 26 年 3 月 31 日

事 業 報 告 書

平成 25 年度 事業報告書

平成 25 年度、本道酪農は前年に引き続きひっ迫する乳製品市場に対して必要とされる生乳を供給すべく、努力してまいりました。しかし、生乳生産量は前年対比で 98.3%と、前年を下回る結果となりました。

これは、搾乳農家数の減少、昨年 8 月以降に顕著に表れ現在も続いている経産牛頭数の大幅な減少という、今まで経験したことがない構造的な要因によるものであります。この問題は、暑熱による生乳生産減少のようなものとは異なり、本道酪農の今後に多大な影響を及ぼすものと考えられます。このような事態に対して今必要なのは、酪農家が安心して増産に取り組むことのできる環境づくりですが、穀物等価格の不透明な動向や TPP 交渉の行方がこれを許してはおりません。

酪農をめぐる情勢としてはとりわけ厳しかった平成 25 年ではありましたが、本会は、本道生乳のブランド力の裏付けとなる乳質の一層の向上、生産される生乳を無駄なく流通させること、また乳牛検定の実施による生産性向上と乳牛の遺伝改良により 1 頭当たりの生産生乳を増加させることなど、検定並びに検査事業を通じて生産技術の面から本道酪農に貢献すべく取り組みを行ってまいりました。

牛群検定事業については、乳牛検定組合は 100 組合、農家数は 4,599 戸、生乳出荷農家に対する普及率では 73%になり、検定頭数は 35 万頭でした。

検定にかかる各種研修会については、検定成績の有効活用の促進や支援体制の整備等を目的とした指導者(検定情報活用支援)養成研修会を開催するとともに、検定技術者養成研修会を開催し検定精度の向上や信頼性の高い検定立会の実施に努めました。

また、酪農学園との包括連携協定に基づき、現場に即したカリキュラムを組み、その中で乳牛検定の重要性と検定情報の利用に関する講義を行いました。

電算業務については、検定成績の効果的な活用を促進するため、検定記録処理お

よび、取りまとめデータの迅速な提供を図るため電算処理システムの改修、開発を実施しました。また、検定農家の多様化に対応するため、基礎データの収集を継続するとともに、技術的検討を行いました。

後代検定事業については、関係団体との密接な連携の下で調整交配精液の完全消化と娘牛保留等に努め、国際的にも高いレベルにある国産種雄牛の作出に貢献しました。

また、今年度より未経産牛の SNP 検査とゲノミック評価が開始され、従来より精度の高い遺伝的能力予測値(GPI)を利用できるようになりました。これにより、早期の選抜淘汰が可能となるため、牛群の遺伝的能力の向上と効率的な酪農経営へ寄与することが期待されます。このような中、北海道乳牛改良委員会の構成メンバーとして、本道における今後の乳牛改良の効率的・効果的推進体制の構築に向けて取り組んで参りました。

生乳検査事業については、合乳検査、個乳検査、個体乳検査および依頼検査について、公正かつ正確な検査を実施しました。

指定生乳生産者団体ホクレンと乳業者との取引等に関わる合乳検査においては、アウトサイダーを含む 377 万トン(前年対比 98.3%)を対象に成分、体細胞数、細菌数ほかの検査を実施しました。

検査業務の基本となる検査精度確保については、試験所及び校正機関の能力に関する一般要求事項(ISO17025)が定める手法に準じた管理手法を取り入れ、一層の精度向上に努めました。

乳質改善支援業務については、高品質で安全性の高い生乳の継続的な生産・供給のため、北海道乳質改善協議会と連携を密にし、生産並びに輸送段階の衛生管理、乳房炎防除、抗菌性物質残留の防止などを柱として積極的に取り組みました。

調査試験業務については、SNP 検査に関する諸条件の確認、道外移出乳の品質

確保に関する調査、乳成分測定機の新規パラメータであるケトン体に関する情報収集などを実施し、申請調査試験としてバルク乳中マイコプラズマ菌(属)の遺伝子検索に係る検査を実施しました。

また、道が進める「道産食品独自認証制度」のナチュラルチーズの認証機関として、本制度の円滑な推進に努めました。

総務部関係については、本年度から公益社団法人に移行したことにより、理事会ならびに総会の権限が改められたことなどをはじめ、当協会の運営に大きな変化が伴うこととなりました。とりわけ、財務上の規律となる「収支相償」については、検査手数料の期間減額による受検者の負担軽減と併せてこの対策に努めるとともに、資産取得資金計画を具体化することにより達成することとなりました。

また、第3期中長期計画(平成22年度～26年度)については、計画の最終年度を控え、会員から構成される検討委員会を開催し、意見交換において提案された事項等については、第4期の計画策定に向けた継続課題として位置づけることとしました。

このほか、事業を推進するに当たっての危機管理対策や個人情報保護のための内部研修会の開催に加え、就業規則ほか諸規程を改正し、コンプライアンスの徹底が図られるよう努めました。

第1 事業の実施状況

1 乳牛検定関係

(1) 牛群検定事業

ア 牛群検定の実施

優良な乳用雌牛群の改良と乳用種雄牛の選抜を促進するため、北海道の強い農業づくり事業(産地競争力の強化)牛群検定高度化事業実施要領に基づき、100 検定組合(131 市町村)等において、牛群検定、後代検定を実施した。年度末における検定農家数は4,599 戸(54 戸加入・176 戸除籍と前年度より122 戸減少)、検定牛頭数は34 万9,545 頭(前年度より5,145 頭減少)で、事業量に応じて補助金を交付した。

事業の内容および実績

事業実施主体	区分	内容	事業費	内訳	
				道費補助金	その他
乳牛検定組合等・畜人工授精師協会	能力検定	検定員謝金・立会	263,523,856	106,442,548	380,124,117
		生乳検査	173,385,759		
		計	436,909,615		
	調整交配啓発	推進会議	1,899,782		
		調査・指導	9,956,032		
		資料作成	392,200		
		調査取りまとめ	10,349,062		
		現地指導	1,898,662		
		計	24,495,738		
	検定娘牛保留啓発	調査・指導推進	14,748,588		
		資料作成	160,452		
		調査取りまとめ	10,252,272		
		計	25,161,312		
	小計		486,566,665		
本会	検定指導	5,852,677	1,058,452	4,794,225	
合計			492,419,342	107,501,000	384,918,342

イ 牛群検定の推進

牛群検定の一層の普及を図るため、検定未加入農家を対象にした試行検定や簡易化検定としての AT 検定法等の説明会を開催するなど、牛群検定加入促進と検定離脱防止に努めた。

本年度は、2 組合が新たに AT 検定に移行し、年度末で 96 組合、3,859 戸、29 万 1,844 頭で実施され、全検定農家戸数の 85.2%となった。また、自動検定(搾乳ロボット検定)については、6 戸加入したが 5 戸脱退したため、検定実績は昨年度末より 1 戸増の 65 戸となった。

ウ 検定成績

平成 25 年度の牛群検定成績における、1 頭 1 日当たり乳量は、前年度に比べ 0.1kg 増の 28.8kg、乳成分については、乳脂肪率は 0.01 ポイント増の 4.01%、乳タンパク質率は 0.01 ポイント増の 3.31%、無脂乳固形分率は 0.01 ポイント減の 8.79%であった。体細胞数は前年度より減少し 217 千/ml、濃厚飼料給与量は同値の 10.8kg であった。

また、平成 25 年 1 月～12 月の経産牛 1 頭当たり年間検定成績における乳量は、前年に比べ 79kg 増の 9,105kg となった。なお、分娩間隔については、前年より 1 日延長し 432 日となった。

エ 検定情報の利活用の指導・支援

検定事業を円滑に推進するため、各地域・組合代表者による協議会・会議を開催した。また、検定情報の有効活用、効果的な指導に資するため、各研修会を主催するとともに検定員の資質向上、検定農家支援体制の構築に努めた。

また検定組合等の要請に応じ、講師を随時派遣し検定事業の普及を図った。

地区別組合長協議会

- ・ 開催期日 平成 25 年 10 月 3 日～10 月 24 日
- ・ 開催地 札幌市ほか 9 地区
- ・ 出席者 272 名

乳牛検定組合連合会会長・事務局長会議

- ・ 開催期日 第1回 平成25年9月20日
第2回 平成26年3月26日
- ・ 開催地 札幌市
- ・ 出席者 延べ70名

検定情報活用推進会議

- ・ 開催期日 平成25年11月1日
- ・ 開催地 札幌市
- ・ 出席者 17名

検定員中央研修会(乳用牛群検定全国協議会との共催)

- ・ 開催期日 平成26年2月28日
- ・ 開催場所 札幌市
- ・ 出席者 369名

講演テーマと講師

「北海道酪農の歴史」

- 現在そして未来へ -

ホクレン農業協同組合連合会

代表理事常務 板東寛之氏

「私の酪農経営と乳検」

- 乳検データから観るステップアップ 滝上 -

滝上町酪農組合

組合長 平石茂氏

「ゲノミック評価について」

- 誰にでも解るゲノミック評価 -

北海道ホルスタイン農業協同組合

改良部長 河原孝吉氏

「乳牛改良をめぐる情勢について」

農林水産省 生産局 畜産部 畜産振興課

畜産技術室 家畜改良推進班

課長補佐 松本隆志氏

また、平成 25 年度優秀検定員として、本会が推薦した次の 11 名が乳用牛群
検定全国協議会から表彰された。

<受賞者>	敬称略
飛田 康裕	美深町乳牛検定組合
高橋 司	ようてい乳牛検定組合
島村 淳子	八雲町乳牛検定組合
渡辺 初子	本別町乳牛検定組合
沼田 つたえ	摩周湖乳牛検定組合
小椋 登	浜中町乳牛検定組合
新藤 良治	道東あさひ農業協同組合
城下 和恵	中標津乳牛検定組合
中澤 誠一	湧別町乳牛検定組合
久保田 賢一	オホーツクはまなす農業協同組合
佐野 甲奈	北宗谷農業協同組合

地区別検定員研修会

- ・ 開催期日 平成 25 年 11 月 5 日～11 月 20 日、平成 26 年 1 月 31 日
- ・ 開催地 札幌市ほか 9 地区
- ・ 出席者 延べ 379 名

検定指導士認定講習会

検定員および検定農家への指導助言活動を推進していく上で地域の中核となるリーダーを養成する講習会を開催し、適格者を北海道知事に認定申請した。その結果、8 名が検定指導士として認定された。

- ・ 開催期日 平成 25 年 6 月 24 日 ~ 28 日
- ・ 開催場所 札幌市
- ・ 受講者 8 名

検定情報活用研修会

- ・ 開催期日 第 1 回 平成 25 年 10 月 31 日 ~ 11 月 1 日
第 2 回 平成 26 年 2 月 27 日
- ・ 開催地 札幌市
- ・ 出席者 延べ 249 名

指導者(検定情報活用支援)養成研修会

- ・ 開催期日 平成 25 年 11 月 27 日 ~ 11 月 29 日
- ・ 開催地 札幌市
- ・ 受講者 40 名

検定員養成研修会

- ・ 開催期日 第 1 回 平成 25 年 7 月 30 日 ~ 7 月 31 日
第 2 回 平成 25 年 8 月 29 日 ~ 8 月 30 日
- ・ 開催地 本別町(北海道立農業大学校)
- ・ 受講者 延べ 40 名

ゲノミック評価の利活用を図る勉強会

本年度から開始された遺伝的能力向上対策の円滑な推進のため、検定農家および検定組合関係者の知識向上を図るため勉強会を開催した。

- ・ 開催期日 平成 25 年 11 月 25 日 ~ 12 月 18 日
- ・ 開催地 9 地区
- ・ 出席者 延べ 291 名

(2) 後代検定事業

ア マスタ登録・生産娘牛・受胎の状況

(一社)北海道家畜人工授精師協会等との密接な連携の下で調整交配および娘牛の保留の推進を図った。

	調整交配頭数	受胎頭数	生産娘牛頭数	マスタ登録頭数
平成 22 後検	53,950	24,528	8,756	(6,061)
平成 23 後検	53,756	24,683	8,534	(4,665)
平成 24 後検	53,910	24,498	(7,694)	(2,240)

(注)カッコ内は経過中の頭数

イ 平成 25 後検の調整交配

本会および地区連合会主催の乳用牛群改良推進会議との協議に基づき、検定組合・関係機関に対する説明会を開催した。

25 後検の調整交配頭数は、当初計画に 20 組合からの追加希望 2,061 頭が上乘せとなり、5 万 4,954 頭となった。

前 期 (交配期間: 平成 25 年 11 月 ~ 平成 26 年 2 月)		後 期 (交配期間: 平成 26 年 4 月 ~ 7 月)		合 計		前期に 於ける 3 月末の 調整交配 頭数
候補種雄牛 頭数	調整交配 計画頭数	候補種雄牛 頭数	調整交配 計画頭数	候補種雄牛 頭数	調整交配 計画頭数	
100	29,115	85	25,839	185	54,954	28,803
前期計画に対する調整交配頭数率						98.9%

ウ 国産種雄牛生産強化推進事業

乳用種雄牛遺伝評価における検定データの正確性の向上と円滑な収集を行うため、後代検定娘牛の検定成績が新たに採用されたことに対する奨励措置として、(一社)家畜改良事業団から本会を通じて検定組合等に対し、9,618 万円の助成金等が交付された。

・ データ収集費(検定農家) 95,658,000 円

20 後検 (A4 検定 2 万円/頭:437 頭・AT 検定 1 万 8 千円/頭:1,821 頭)

21 後検 (A4 検定 2 万円/頭:493 頭・AT 検定 1 万 8 千円/頭:2,460 頭)

・ 娘牛確認費(検定組合) 521,100 円

100 円/頭:5,211 頭

計 96,179,100 円

エ 高泌乳持続性乳用種雄牛利用促進事業

候補種雄牛の調整交配用雌牛について調整交配期間の繁殖成績に関する調査等を行うため、候補種雄牛の精液を授精した雌牛への奨励措置として、(一社)家畜改良事業団から本会を通じて検定組合等に対して 5,150 万円の助成金が交付された。

・ データ収集対策(検定農家) 51,502,000 円

24 後検 (1,000 円/頭 : 34,499 頭)

25 後検 (1,000 円/頭 : 17,003 頭)

(3) 酪農経営安定対策補完事業(牛群検定システム高度化支援事業)

本事業は、平成 25 年度畜産物価格関連対策として措置され、本会及び検定組合(以下「団体」という。)が行った乳質向上対策事業、生産効率向上対策事業および遺伝的能力向上対策事業に対し、(独法)農畜産業振興機構から本会を通じて、検定組合等に補助金が 9,176 万円交付された。

ア 乳質向上対策

・ 生乳品質改善計画の策定 98 団体 1,334,340 円

・ 純タンパク含量に関するデータの収集及び酪農家に対する指導

97 団体(4,555 戸) 76,325,359 円

小 計 77,659,699 円 (a)

イ 生産効率向上対策

・ BCS 等のデータの収集及び酪農家に対する指導

2 団体(152 戸) 3,032,650 円 (b)

ウ 遺伝的能力向上対策

・ 遺伝的能力向上計画の策定	40 団体	1,050,609 円
・ 未經産牛の遺伝子情報を用いた遺伝的能力の評価の実施のために必要なサンプル収集、検査及び検定組合等に参加している酪農家に対する指導	38 団体(218 戸)	8,378,527 円
・ 未經産牛のゲノミック評価の利活用を図るための勉強会の開催	4 団体	453,385 円
小 計		9,882,521 円 (c)

エ 事業の推進

・ 事業の推進	1 団体	1,182,648 円 (d)
合 計(a + b + c + d)		91,757,518 円

(4) 平成 25 年度牛群検定推進対策事業 (牛群検定の試行、パソコン、通信機器助成)

牛群検定の普及拡大を図るため、検定未加入農家を対象にした試行検定を 26 組合、49 戸で実施し、(一社)家畜改良事業団から本会を通じて、検定組合に補助金 359 万 8 千円を交付した。

試行検定に係る事業は、平成 11 年度～25 年度までに合計 739 戸が実施し、現在 574 戸が引き続き検定を実施(継続実施率 77.7%)しており、牛群検定の普及定着に大きな効果をあげている。

また、組合パソコンの新規入替を行った 17 組合、通信機器の新規導入した 5 組合、情報収集端末を新規導入した 3 組合に対して、本会は 132 万円を助成した。

(5) 電子計算業務

ア マスタ登録業務

検定農家および検定牛のマスタ登録を次のとおり処理した。

検定農家と検定牛の追加・除籍処理件数

区 分	処 理 件 数		本年度末	前年度末	比較増減	対前年比
	追加	除籍				
農 家 マスタ	戸 54	戸 180	戸 4,599	戸 4,721	戸 122	97.4%
検定牛 マスタ	頭 137,170	頭 139,159	頭 475,587	頭 477,576	頭 1,989	99.6%

注) マスタ処理件数のため実施戸数および頭数と相違。

イ 検定成績の計算処理業務

検定記録の年度処理について、580万4千件(月平均48万4千件 前年度比4万2千件減)の報告があり、これに対する修正を4万3千件(報告件数の0.7% 前年度比1万件減)、照会を2万件(前年度比千件増)処理した。照会件数は微増したが、組合の努力により修正件数は減少した。

また、検定成績着信から成績検査処理までの時間短縮のためシステム改修を実施し、検定成績のフィードバック状況は、検定立会から検定成績表発行までの平均日数4.12日(前年度比0.85日減)短縮された。

ウ 検定記録の集計分析と提供

検定成績の電子データを希望する検定組合等(延べ78ヶ所)に対し、年間検定成績および牛群検定終了成績年報を提供した。また、検定日速報等のメール配信システムの運用については、検定農家へ直接送信分234戸(前年度比16戸増)、支援・指導団体96ヶ所、1,740戸分(前年度比13ヶ所、110戸分増)を対象として実施した。

農業協同組合等がその保有データと乳検データを組み合わせた酪農経営支援(組合員経営管理支援システム:(株)JA北海道情報センター)を行うために、同意が得られた検定農家の牛群検定データ提供を継続した。

検定記録の経時変化をグラフ化した検定成績のとりまとめ集計結果について、全道および地区別のとりまとめ結果を本会ホームページに公開した。

エ 検定情報処理システムの補完と開発

検定データの送受信システムについては、現行の ISDN 回線から高速なブロードバンド回線(ADSL・光回線)への移行を促進するために経費の助成を行い(平成 25 年度牛群検定推進対策事業)、本年度 5 組合が移行し併せて合計 48 組合の移行が完了した。

ブロードバンド回線が準備された組合の内、8 組合で Web システムの運用を開始した。なお、Web システムへの移行に伴い、組合オンラインパソコンでの検定日速報の自動 FAX 機能が使用できなくなることから、インターネット FAX を使用した自動 FAX 機能の開発を行った。また、検定業務の効率化等を図るためシステムの補完およびソフトの開発を行った。

検定立会時に使用するハンディ・ターミナルについては、利便性の高いタブレット型端末を次世代機と定め、システムの開発および現地での運用試験を実施した。

検定情報処理に関しては、自動搾乳検定の簡易化、日次業務の効率化ならびに安定確保のために基幹システムの改修および補完を行った。

オ 検定方法に関わる調査・検証

次世代の検定簡易化、精度向上、省力化に向けた基礎データとして、道内の検定農家 6 戸の協力のもと搾乳別サンプルデータの収集を継続した。

カ 乳牛改良情報の活用手法と新たな遺伝評価方法の検討

北海道遺伝評価業務においては、新規評価形質である体細胞スコアの評価方法の検討、システム開発および検証が完了し運用を開始した。また、乳房炎情報(疾病コード)を用いた抗乳房炎の遺伝評価を行うための基礎分析に着手した。

MTP(多形質予測)法による 305 日期待量の予測をホルスタイン種以外へ適用するため予測方法とシステムの改修を行った。

最新のゲノミック評価理論と評価技術を習得するため、セミナー等へ参加するとともに、試験研究機関および改良団体と情報交換を行った。また、道内の勉強会等でゲノミック評価の理解醸成を目的とした講演、海外視察報告を行った。

検定牛マスタの整備および未經産牛の SNP 検査の参考資料として、牛群に在籍する未經産牛の一覧に遺伝的能力の予測値を付加した未經産牛一覧表を開発し検定組合へ提供を開始した。

2 生乳検査事業関係

(1) 生乳検査事業

ア 合乳検査の実施

指定生乳生産者団体及び乳業者の申請により、成分・体細胞数検査 16 万 2 千検体および細菌数検査 7 万検体の合乳検査を実施した。検査対象乳量は、377 万トン、前年度対比 98.3%であった。

脂肪率および無脂乳固形分率は、それぞれ 3.933% (前年度 3.939%)、8.771% (同 8.776%) であり、脂肪率では 0.006 ポイント低下し、無脂乳固形分率も 0.005 ポイント低下した。

一方、衛生的乳質においては、細菌数 1 万/m 以下の比率は前年同値の 98.7%、体細胞数 30 万/m 以下の比率は、前年度より 0.4 ポイント上昇し、98.4% と引き続き高い水準を維持した。

また、体細胞数 20 万/m 以下の比率は、0.2 ポイント上昇し、64.7% (前年度 64.5%) であった。

イ 個乳検査の実施

農協等からの申請により、成分・体細胞数検査、細菌数検査とともに 16 万 8 千検体の個乳検査を実施するとともに、乳代精算に係る生乳受託旬報事務処理を代行した。検査対象乳量は 253 万 7 千トン、前年対比 97.6% であった。

本会が個乳検査及び生乳受託旬報事務処理代行する農協数は 67 農協、酪農家数は 4,461 戸で、年度末における受託シェアは、酪農家戸数で 72.3%、乳量で 67.0% であった。

ウ 個体乳検査の実施

乳牛検定組合からの申請により、成分・体細胞数検査ならびに MUN 検査について 237 万 7 千検体 (前年対比 97.8%) の検査を実施した。本会が個体乳検査を実施する組合数は 70 組合、農家数は 3,324 戸で、年度末の個体乳受託シェアは、乳検加入農家数ベースで 72.3%、頭数ベースでは 67.5% であった。

エ 依頼検査

農協および乳業工場等からの依頼により各種検査を実施し、総依頼件数は、114 万 9 千検体 (前年対比 99.5%) であった。主要な割合を占めてきた出荷毎のバ

ルク乳や個体乳の体細胞数検査は、平成 17～21 年度は減少傾向であったものの、22 年度以降大きな増減がなく 25 年度は 99 万 5 千検体であり、前年対比は 99.8% であった。

乳房炎起因菌同定検査は 21 年度以降約 1 万検体/年で推移したが、25 年度は 1 万 2 千検体と増加し、前年対比 114.2% であった。

オ 生乳検査精度管理の充実強化

(一社)ミルクが認証する生乳検査精度管理認証施設として本会の内部精度管理を充実し、定められた作業標準等に基づき適正な検査を行うことで公平かつ正確な検査の実施に努めた。

カ 外部精度管理への参加および国内機関との連携

(公財)日本乳業技術協会が実施する外部精度管理調査およびマックスルーブナー研究所(MRI,ドイツ政府研究機関)が実施する体細胞数測定機の国際相互比較試験に参加し、乳成分および体細胞数測定機の精度確認を実施した。

また、乳成分測定機における精度管理の根幹となる公定法分析については、(公財)日本乳業技術協会と定期的なクロスチェックを実施し、国内の検査精度確保に協力するとともに、外部精度管理として国際的な精度管理機関(FAPAS, イギリス)が実施する技能試験に参加し良好な評価を得た。

(2) 乳質改善支援業務

ア 乳質改善への支援

乳質改善に係る技術普及の面では、北海道乳質改善協議会と連携し、生乳集荷業務新任担当者研修会や乳房炎防除対策研究会、ミルク管理技術指導者講習会の企画立案への協力並びに講師派遣を行うとともに、関係機関の主催する研修会にも講師を派遣し、良質乳生産技術の普及を図った。

また、流通段階における生乳の安全・安心の確保については、指定生乳生産者団体並びに北海道乳質改善協議会が推進した抗菌性物質残留検査体制及び検査手法についての情報収集とその内容の検討を行うとともに生産者向けリーフレットの作成ならびに、今年度指定生乳生産者団体が実施した「生乳集荷業務担当者ハンドブック」の改訂に参画した。

イ 生乳検査機器等の精度チェックと校正指導

指定生乳生産者団体からの依頼を受け、年 4 回、農協等が所有する乳成分・体細胞数測定機および細菌数測定法のクロスチェックを実施し、基準内で良好に管理、運用されていることを確認した。また、乳業者が所有する乳成分測定機についても年 6 回、クロスチェックを実施した。

ウ 生乳取扱者技術認定講習会の開催

生乳取扱者の生乳等に関する専門知識及び生乳検査技術の水準向上を図ることを目的として、生乳取扱者や酪農関係技術者を対象に生乳取扱者技術認定講習会を開催した。効果測定の結果に基づき、認定基準を満たした受講者 67 名について、北海道知事から認定証が交付された。

- ・ 開催日時 平成 25 年 9 月 9 日～13 日(5 日間)
- ・ 開催場所 JA 北農ビル
- ・ 受講者数 67 名(生産者団体、乳業者、集送乳業者の各担当者)
- ・ 知事認定者 67 名
- ・ 運営委員会の開催 2 回

(3) 安全・安心に向けた取り組み

ア 生乳のトレーサビリティ確保に向けた取り組み

指定生乳生産者団体が進める生乳トレーサビリティ確保への取り組みに、本会が窓口となり収集する生乳流通情報(出荷乳量、乳温)を提供することで協力するとともに、その情報の取り扱いに関わる検討に協力した。また、情報が有効なものとするためには、生乳の流通工程を正しく把握する必要があるとの認識から、指定生乳生産者団体、クーラーステーション、輸送業者、受入乳業者の協力を得て、道外生乳輸送工程の実態調査を行った。

イ ポジティブリスト制度に係る検証

指定生乳生産者団体が推進するポジティブリスト制度に対応した農薬・動物用医薬品使用記録や搾乳・乳温等の生産履歴の記録記帳の推進に協力した。

また、指定生乳生産者団体からの要請により、農薬・動物用医薬品の用法・用量の遵守、記帳等による安全確保の仕組みが良好に機能していることを確認する目的で、タンクローリー乳を対象として農薬・殺虫剤の成分であるシロマジン 10 検体、

抗生物質カナマイシンおよびエリスロマイシン 1,956 検体について残留確認検査を実施し、すべて陰性を確認した。

(4) 調査試験業務

ア SNP検査に関する調査試験

検査工程の初期段階で行う牛の毛根試料から DNA 抽出・精製方法について、酪農学園大学家畜遺伝学教室にて実習を行い、キットの選定および試験に関する諸条件の設定を行った。

また、畜産技術協会遺伝学研究所において、専用スキャナーによる確認検査を実施した。

イ 生乳道外移出に係る関連調査の実施

道外移出生乳の乳質確保を目的として、依頼に基づき輸送用タンクの衛生管理に関する調査を行い、良好に管理されていることを確認した。

ウ マイコプラズマ性乳房炎に係る調査試験の実施

マイコプラズマ性乳房炎を効率的に防除するための体制構築の一環としてモデル的に地区を設定し、バルク乳中マイコプラズマ菌(属)の遺伝子検索に係る調査試験を実施した。

バルク検査延べ戸数 3,525 戸に対し陽性戸数は 8 戸であり、検出率は 0.2%であった。

エ 乳成分測定機の新規パラメータに関する調査

乳成分測定機の新規パラメータであるケトン体について、情報収集および今後の検討を行った。

(5) 効率的な検査体制の構築

十勝農業協同組合連合会との細菌数検査に係る共同実施について、本会の定める「生乳検査作業手順書」に基づき、最も重要となる精度管理上の測定機の再現性試験を実施し、効率的な検査体制としての業務連携を推進した。

(6) 道産食品独自認証制度(ナチュラルチーズ)認証の実施

道が進める「道産食品独自認証制度」のナチュラルチーズ認証機関として、業務実施規定に基づき3社6品目について継続認証した。

- ・ 官能検査並びに会議の開催 平成25年9月20日
- ・ 専門家審査員 5名の専門家に委嘱

第2 主な処理事項

年 月 日	処 理 事 項
平成 25. 4. 8	第1回事業所長会議(札幌市)
5. 23~24	平成24年度会計実査(札幌市)
6. 5	平成24年度決算監査(札幌市)
7	第1回理事会(札幌市)
19	第39回通常総会(札幌市)
"	第2回理事会(札幌市)
20	第1回生乳取扱者技術認定講習会運営委員会(札幌市)
24~28	検定指導士認定講習会(札幌市)
25~27	第1回内部監査(標茶町:釧路事業所)
27	道産食品独自認証制度ナチュラルチーズ現地審査(新得町)
7. 5	道産食品独自認証制度ナチュラルチーズ現地審査(安平町)
11	道産食品独自認証制度ナチュラルチーズ現地審査(興部町)
30~31	第1回検定員養成研修会(本別町)
8. 29~30	第2回検定員養成研修会(本別町)
9. 9~13	生乳取扱者技術認定講習会(札幌市)
18~20	第2回内部監査(札幌市:総務部)
20	後代検定推進会議(札幌市)
"	第1回乳牛検定組合連合会会長・事務局長会議(札幌市)
"	道産食品独自認証制度ナチュラルチーズ専門家審査(札幌市)
10. 3~24	地区別検定組合長協議会(全道9カ所)
25	第2回生乳取扱者技術認定講習会運営委員会(札幌市)
31~11.1	第1回検定情報活用研修会(札幌市)
11. 1	検定情報活用推進会議(札幌市)
5、7	平成25年度上半期会計実査(札幌市)
5~1.31	地区別検定員研修会(全道9カ所)
12~14	第3回内部監査(札幌市:生乳検査部)
22	平成25年度上半期監事監査(札幌市)
25~12.18	ゲノミック評価の利活用を図る勉強会(全道9カ所)
27~29	指導者(検定情報活用支援)養成研修会(札幌市)

年 月 日	処 理 事 項
12. 9	第3回理事会(札幌市)
19	第2回事業所長会議(札幌市)
平成 26. 2. 4~ 6	第4回内部監査(札幌市:乳牛検定部)
7~ 8	検定情報活用研修(釧路市)
13	中長期計画・業務運営に係る意見交換会議(札幌市)
27	第2回検定情報活用研修会(札幌市)
28	検定員中央研修会(札幌市)
3. 12	第4回理事会(札幌市)
26	第2回乳牛検定組合連合会会長・事務局長会議(札幌市)

第3 総 会

年 月 日	出席会員	議 案 と 議 決 状 況
第39回通常総会 平成 25.6.19	41	<p>. 報告事項</p> <p>1. 平成24年度事業報告書について</p> <p>. 付議事項</p> <p>1. 平成24年度決算報告書(収支計算書、貸借対照表、財産目録、正味財産増減計算書ならびにキャッシュフロー計算書)の承認について</p> <p>2. 役員を選任について</p> <p style="text-align: right;">原案どおり議決</p> <p>. その他</p> <p>1. 平成25年度補正予算について</p>

第4 理事会

年 月 日	議 案 と 議 決 状 況
第 1 回 平成 25.6.7	1. 平成24年度決算報告書(収支計算書、貸借対照表、財産目録、正味財産増減計算書ならびにキャッシュフロー計算書)の承認について 2. 平成25年度検査手数料減額調整の実施について 3. 平成25年度収支予算の補正について 4. 役員選考委員の選任について 5. 第39回通常総会の開催について <p style="text-align: right;">原案どおり議決</p>
第 2 回 平成 25.6.19	1. 役付理事の互選について 2. 旅費規程の一部改正について <p style="text-align: right;">原案どおり議決</p>
第 3 回 平成 25.12.9	1. 規程類の制定・改正について 2. 平成26年度予算編成に関する事項について <p style="text-align: right;">原案どおり議決</p>
第 4 回 平成 26.3.12	1. 平成26年度事業計画ならびに収支予算について 2. 役員選考委員の委嘱期間について 3. 規程の改正および制定について <p style="text-align: right;">原案どおり議決</p>

第5 組 織

1 会 員

区 分	24年度末現在	25年度加入	25年度脱退	25年度末現在
一般会員	34	0	0	34
会費会員	3	0	0	3
特別会員	7	0	0	7
合 計	44	0	0	44

(会員名簿) (順不同)

一般会員

会 員 名	会 員 名
北海道	上川乳牛検定組合連合会
一般社団法人ジェネティクス北海道	後志地区乳牛検定組合連合会
一般社団法人北海道酪農協会	道南地区乳牛検定組合連合会
北海道ホルスタイン農業協同組合	胆振乳牛検定組合連合会
公益財団法人北海道農業公社	日高乳牛検定組合連合会
サツラク農業協同組合	十勝乳牛検定組合連合会
株式会社ジャパン・ホルスタイン・ブリーディング・サービス	釧路地区乳牛検定組合連合会
ホクレン農業協同組合連合会	根室乳牛検定組合連合会
上川生産農業協同組合連合会	網走管内乳牛検定組合連合会
釧路農業協同組合連合会	宗谷乳牛検定組合連合会
根室生産農業協同組合連合会	留萌管内乳牛検定組合連合会
十勝農業協同組合連合会	北海道酪農畜産協会
宗谷生産農業協同組合連合会	雪印メグミルク株式会社
日高生産農業協同組合連合会	株式会社 明治
胆振生産農業協同組合連合会	森永乳業株式会社
石狩乳牛検定協会	よつ葉乳業株式会社
空知乳牛検定組合連合会	北海道日高乳業株式会社

会費会員

会 員 名	会 員 名
北海道農業協同組合中央会	北海道農業共済組合連合会
北海道乳質改善協議会	

特別会員

会 員 名	会 員 名
北海道乳業株式会社	タカナシ乳業株式会社
チクレン農業協同組合連合会	北海道保証牛乳株式会社
くみあい乳業株式会社	ラクレン農業協同組合連合会
株式会社北海道酪農公社	

2 役員

(単位:名)

区 分		24年度末現在	25年度末現在	摘 要
理事	会 長	1	1	
	副 会 長	2	2	
	専 務 理 事	1	1	(常勤)
	理 事	8	8	
	計	12	12	
監事	代 表 監 事	1	1	
	監 事	2	2	
	計	3	3	
合 計		15	15	

3 職員

(単位:名)

区 分	24年度末現在	25年度採用	25年度退職	25年度末現在
総合職	51	1	1	51
一般職	17	0	2	15
嘱託	4	1	0	5
合 計	72	2	3	71

備考：臨時職員・パート職員 31名

(参考)

牛群検定事業実施状況の推移

年 度	組合数 (戸)	マスタ登録				加入 戸数 (戸)	除籍 戸数 (戸)	農林水産統計	
		戸 数 (戸)	普及率 (%)	頭 数 (頭)	普及率 (%)			戸 数 (戸)	頭 数 (頭)
16	113	5,499	64.4	348,992	71.5	135	157	8,540	488,100
17	113	5,419	65.4	353,376	72.0	101	181	8,290	491,100
18	113	5,294	65.9	346,604	73.4	69	194	8,030	472,200
19	112	5,230	67.7	356,426	74.1	88	152	7,720	481,000
20	111	5,138	68.4	361,465	73.7	59	151	7,510	490,500
21	110	5,053	68.7	361,587	73.9	56	141	7,350	489,200
22	110	4,983	69.9	357,796	74.6	72	142	7,130	479,600
23	107	4,825	69.6	358,605	72.4	67	198	6,970	495,400
24	100	4,721	67.7	354,690	71.6	60	191	6,910	485,200
25	100	4,599	66.6	349,545	72.0	54	176		

年	1頭1日当 乳量 (kg)	年間乳量 1頭当 (kg)	成分率			体細胞 数 (万/ml)	分娩 間隔 (日)	空胎 日数 (日)	1頭1日当 濃厚飼料給 (kg)
			脂肪率 (%)	乳タンパク質率 (%)	無脂乳固形分率 (%)				
16	27.8	8,713	4.06	3.28	8.79	25.0	426	151	9.7
17	27.8	8,669	4.06	3.32	8.83	23.0	428	149	9.8
18	27.8	8,651	4.08	3.31	8.79	21.0	425	150	9.5
19	27.7	8,669	4.08	3.30	8.77	21.0	428	151	9.5
20	27.8	8,751	4.06	3.30	8.76	20.0	426	150	9.5
21	28.2	8,839	4.06	3.31	8.79	20.0	427	152	9.8
22	28.2	8,853	4.01	3.28	8.78	21.0	428	155	10.1
23	28.3	8,899	4.01	3.30	8.79	21.0	433	157	10.6
24	28.6	9,026	4.01	3.31	8.80	22.0	431	155	10.8
25	28.9	9,105	4.03	3.32	8.80	21.8	432	156	10.8

(年間検定成績を記載)

生乳検査成績の推移

年 度	成分率			細菌数 1万/m以下 比率(%)	体細胞数	
	脂肪率 (%)	無脂乳固形分率 (%)	全固形分率 (%)		20万/m以下 比率(%)	30万/m以下 比率(%)
16	4.032	8.746	12.778	97.9	48.4	94.0
17	4.020	8.770	12.790	98.5	62.3	97.7
18	4.013	8.739	12.752	98.7	70.3	98.8
19	4.008	8.718	12.726	98.9	70.3	98.9
20	4.000	8.725	12.725	98.9	72.2	99.1
21	3.990	8.744	12.734	98.8	72.2	98.9
22	3.936	8.738	12.674	98.7	68.0	98.3
23	3.941	8.759	12.701	98.7	67.9	98.5
24	3.939	8.776	12.715	98.7	64.5	98.0
25	3.933	8.771	12.704	98.7	64.7	98.4

平成25年度 生乳検査実施状況

項 目		検 体 数	対前年比	備 考	
				検査対象乳量	前年対比
合乳	成分・体細胞数検査	161,786 件	99.8 %	3,769,889,928.6 Kg	98.3 %
	細菌数検査	69,973 件	99.7 %		
個乳	成分・体細胞数検査	167,770 件	95.9 %	2,536,768,429.9 Kg	97.6 %
	細菌数検査				
個体乳検査		2,377,439 件	97.8 %		
依頼検査		1,148,759 件	99.5 %		